

〔Ⅲ〕 次の文の(1)～(7)に入れるのに最も適当な語句を下記の語群Ⅰから、(8)～(15)に入れるのに最も適当な語句を下記の語群Ⅱから選び、その記号をマークしなさい。

1368年に創建された明朝は、海禁政策によって民間人の海上貿易を禁止し、周辺国との関係を朝貢・冊封関係に限定した。15世紀初頭、(1)帝は(2)に大艦隊を率いさせ東南アジアやインド洋へ派遣し、諸国に対して朝貢使節の派遣を要求した。その結果、多くの国々が朝貢使節を明朝へ派遣した。

同時期の東南アジアでは香辛料貿易が活発化し、特に(3)海峡に面したイスラーム国家の(3)王国が貿易ネットワークの中心として繁栄した。ヨーロッパにおける香辛料の需要の高まりをうけて香辛料貿易の独占を目指した(4)は、喜望峰をまわってインド西岸の(5)に到達したヴァスコ=ダ=ガマの航海によってインド航路を開拓し、1511年には(3)を占領したが、香辛料貿易の独占には失敗した。これ以降ムスリム商人は(3)を避け、スマトラとジャワの間のスンダ海峡をぬけてインド洋からジャワ海に入るルートを開拓した。その結果スマトラ島北部の(6)王国などが栄え、東南アジア各地に交易拠点が形成された。(4)は1557年に中国沿海部の(7)での居住を明朝から許可され、中国貿易の根拠地とした。また(4)は日本の平戸にも来航して当地を日本貿易の根拠地とし、アジア域内貿易をおこなった。

〔語群Ⅰ〕

- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| (ア) 永楽 | (イ) 正統 | (ウ) 洪武 |
| (エ) 鄭和 | (オ) 鄭成功 | (カ) 王守仁 |
| (キ) パレンバン | (ク) マカオ | (ケ) モルッカ |
| (コ) ゴア | (サ) カリカット | (シ) カルカッタ |
| (ス) バタヴィア | (セ) マジャパヒト | (ソ) アチェ |
| (タ) マラッカ | (チ) マニラ | (ツ) フランス |
| (テ) スペイン | (ト) イギリス | (ナ) オランダ |
| (ニ) ポルトガル | | |

明朝では、16世紀頃から各種の税や徭役を銀に一本化して納入させる(8)が施行され、民間社会で銀に対する需要が高まっていた。折しも日本で銀の採掘量が激増しており、日本と中国を結ぶ密貿易が活発化した。密貿易集団の活動に手を焼いた明朝は、16世紀後半に海禁政策を緩和して中国商人の貿易活動を部分的に許可したため、中国・東南アジア間の貿易が活発化した。東南アジア各地には中国人町が形成され、ビルマの(9)朝などの政権が貿易を通じて強大化した。

一方、コルテスが(10)王国を滅ぼすなどアメリカ大陸で植民地を拡大していた(11)は、太平洋を横断して現在のフィリピンに到達し、(12)を建設した。現在のボリビア領で銀山が発見されると、そこで採掘された銀がメキシコの(13)から太平洋横断航路を通じて(12)に運ばれた。また、(14)は1602年に東インド会社を設立してアジアに進出し、1619年にジャワの(15)を奪取して香辛料貿易の拠点とした。さらに(14)は台湾を領有して東シナ海貿易の拠点とすると、日本でも貿易を許可され、東・東南アジアを結ぶ貿易をおこなった。

〔語群Ⅱ〕

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| (ア) 一条鞭法 | (イ) 衛所制 | (ウ) 地丁銀制 |
| (エ) アユタヤ | (オ) タウンゲー | (カ) マタラム |
| (キ) アステカ | (ク) ポトシ | (ケ) インカ |
| (コ) バタヴィア | (サ) マカオ | (シ) バンテン |
| (ス) アカプルコ | (セ) マニラ | (ソ) パガン |
| (タ) オランダ | (チ) ポルトガル | (ツ) スペイン |
| (テ) フランス | (ト) アメリカ | (ナ) イギリス |